

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	豊橋技術科学大学	整理番号	R03
プログラム名称	超大規模脳情報を高度に技術するブレイン情報アーキテクトの育成		
プログラム責任者	寺嶋 一彦	プログラムコーディネーター	中内 茂樹

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

[総括評価]

計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

[コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、ブレイン情報アーキテクトとはどういう人材で、何をどう教えるべきか、明らかにしたことは評価できる。脳科学に立脚してデバイスやソフトウェアの研究開発が行える応用脳科学人材の需要は今後大きくなることが予想されることから、大きな意義があったと言える。教育面では、浜松医科大学との協働教育、企業を巻き込んだ応用脳科学コンソーシアムとの連携、グローバルサマースクール、海外等での実務訓練などの取組が実施され、着実な成果が上がった。教育体制の整備については、自大学の教員に加え、民間企業、他大学、海外研究機関の研究者からなる複数指導教員体制が構築されたことも評価できる。また、副指導教員の選び方や研究テーマの設定において学生の主体性が活かされたこと、学位の質保証に関して、十分に練られた学位審査フローが構築され、実務訓練履修資格審査などの6段階の適切な審査が行われたことなども評価できる。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、プログラムが進行するに伴い、ブレイン情報アーキテクトについての学生の理解が深まり、将来この分野を担う優秀な学生が育ち、修了者全員が産業界に就職し、今後の活躍が期待できることは評価できる。ただし、豊橋技術科学大学の特性に起因する面もあるが、女性や留学生が少ないなど多様性の確保が不足していたことは残念であり、今後の事業の継続に際しては、一層の努力が求められる。

事業の定着・発展については、第3期中期目標・中期計画に基づいて分野（専攻）横断型プログラムが実施されることや、人材や予算の確保が行われていることは評価できる。ブレイン情報アーキテクトの意味するところは広く重要性も高いため、今後この分野の更なる発展に寄与すること、着実に事業が定着・発展することが望まれる。